

# 総 合 学 習 センター だより

No.48

平成23年(2011)4月15日発行  
 発行・編集：総合学習センター  
 公民館報 NO.658  
 図書館だより NO.385

## 飯山市の歴史



**桜とゆかりの深い飯山城**  
 飯山城にまつわる伝承として、今から約800年前、泉小次郎親衛が、終生の地をこの丘に求め、お守りを桜の大木にかけて祈ったところ、清冽な水がわき出たので、この地を神櫻の柵、井戸を桜井戸としたという伝説があります。城山の桜は、明治16年に葵神社の創設を記念して植えられたものと、大正4年の大正天皇御大典の際に植樹したものが基礎になり、現在は約400本のソメイヨシノが咲き誇る名所となっています。

飯山公民館 電話：62-3342  
 FAX：62-5940  
 秋津公民館 電話/FAX：62-2330  
 木島公民館 電話/FAX：62-0555  
 瑞穂公民館 電話/FAX：65-2501  
 柳原公民館 電話/FAX：62-5562  
 富倉公民館 電話：67-2136  
 FAX：67-2211  
 外様公民館 電話/FAX：62-1029  
 常盤公民館 電話/FAX：62-3200  
 太田公民館 電話/FAX：65-4579  
 岡山公民館 電話：69-2010  
 FAX：69-1800

### 就任挨拶



## 飯山市総合学習センター所長就任にあたって

総合学習センター所長 服部 秀人

市から、総合学習センター所長(兼)飯山市民館長(兼)飯山市民館館長(兼)飯山市民館館長を、とお声をかけて戴きました。私ごときが、と躊躇をした次第です。いろいろお話を伺ってみました。センターの目指すところは、社会教育の充実にあるということですので、それならば、外様公民館で体験させて戴いたことの延長線でもあると思います、お引き受け致しました。至らぬところの多い人間ではありますが、皆様からお力をお借りして、その任に当たりたいと存じますので、ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

社会教育活動の成果として期待できることは、地域の活性化だと思います。私ごときが、と躊躇をした次第です。いろいろお話を伺ってみました。センターの目指すところは、社会教育の充実にあるということですので、それならば、外様公民館で体験させて戴いたことの延長線でもあると思います、お引き受け致しました。至らぬところの多い人間ではありますが、皆様からお力をお借りして、その任に当たりたいと存じますので、ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

総合学習センターは、市民の学習の場であると同時に、市外の皆様にも活用して戴ける立派な施設であると感じております。前述のように、人口が減った飯山ですが、今も将来も楽しい飯山であるためには、市民の協働と、市外の「飯山ファン」の支えが大きな役割を果たすことと思います。センターには、「美術館」や「ふるさと館」のように、市外の方々にも喜んで戴ける「宝もの」があります。また、市内のいたるところに、市民のくらし、自然、歴史、といったすばらしい「宝もの」がいっぱいあります。飯山を学び、学びから誇りが生まれ、誇りから郷土愛がはぐくまれる、と思います。平成18年3月に策定された「飯山市自立のための計画書」(平成18年から24年までの7カ年計画)に基づいて飯山づくりが進んでいます。その前半の成果が現れていることは市報等でお知らせ戴いてきました。社会教育活動の立場から、「いいやまの宝を財産にかえる」ことにより、「楽しい飯山」の発展に微力を注ぎたいと存じます。センターへお気軽にお寄り戴き、皆様からアイデアを提供して戴ければ幸いです。

総合学習センターは、市民の学習の場であると同時に、市外の皆様にも活用して戴ける立派な施設であると感じております。前述のように、人口が減った飯山ですが、今も将来も楽しい飯山であるためには、市民の協働と、市外の「飯山ファン」の支えが大きな役割を果たすことと思います。センターには、「美術館」や「ふるさと館」のように、市外の方々にも喜んで戴ける「宝もの」があります。また、市内のいたるところに、市民のくらし、自然、歴史、といったすばらしい「宝もの」がいっぱいあります。飯山を学び、学びから誇りが生まれ、誇りから郷土愛がはぐくまれる、と思います。平成18年3月に策定された「飯山市自立のための計画書」(平成18年から24年までの7カ年計画)に基づいて飯山づくりが進んでいます。その前半の成果が現れていることは市報等でお知らせ戴いてきました。社会教育活動の立場から、「いいやまの宝を財産にかえる」ことにより、「楽しい飯山」の発展に微力を注ぎたいと存じます。センターへお気軽にお寄り戴き、皆様からアイデアを提供して戴ければ幸いです。

総合学習センターは、市民の学習の場であると同時に、市外の皆様にも活用して戴ける立派な施設であると感じております。前述のように、人口が減った飯山ですが、今も将来も楽しい飯山であるためには、市民の協働と、市外の「飯山ファン」の支えが大きな役割を果たすことと思います。センターには、「美術館」や「ふるさと館」のように、市外の方々にも喜んで戴ける「宝もの」があります。また、市内のいたるところに、市民のくらし、自然、歴史、といったすばらしい「宝もの」がいっぱいあります。飯山を学び、学びから誇りが生まれ、誇りから郷土愛がはぐくまれる、と思います。平成18年3月に策定された「飯山市自立のための計画書」(平成18年から24年までの7カ年計画)に基づいて飯山づくりが進んでいます。その前半の成果が現れていることは市報等でお知らせ戴いてきました。社会教育活動の立場から、「いいやまの宝を財産にかえる」ことにより、「楽しい飯山」の発展に微力を注ぎたいと存じます。センターへお気軽にお寄り戴き、皆様からアイデアを提供して戴ければ幸いです。

### 美術館企画展

## 「画人 長谷川青澄の世界～珠玉の院展出品作品を中心に～」

伝統美を現代的な視点で捉え、日本人の美意識を追求し続けた長谷川青澄(1916～2004、飯山市出身、日本美術院同人評議員)。市美術館が所蔵する初期から最晩年までの院展出品作品等の日本画約35点を展示し、長谷川芸術の深遠な世界を紹介します。(期間：4/29～5/29)

### ギャラリー企画展

## 「～千曲川巡礼～奥信濃の自然と人 池田春男写真展」

千曲川流域の自然と人々の暮らしを撮影するため、冬から春を飯山市瑞穂地区で過ごす写真家・池田春男(神奈川県逗子市在住、1936～)が10年以上に亘って撮り続けた中から作品約80点を紹介します。(期間：4/28～5/29)

※4月23日(土)・24日(日)の二日間は展示室、ギャラリー、ロビーのすべてが第31回飯山市民芸術祭の会場となります。  
 ※利用案内等については、裏表紙の情報をご覧ください。

### 市民学芸員の横顔 活動紹介 No.2

## 民具の復元・技術の伝達者

ふるさと館市民学芸員 小市 沢衛さん(常盤・戸隠)

小市沢衛さんは、民具の復元・技術の伝達者としてふるさと館の活動にご協力いただいています。平成19年、ふるさと館に収蔵されている古いハタ織り機を復元してください。方を探していたところ、さつそくご連絡いただき修復に取り掛かってくださいました。ハタ織り機の組み立てから始まり、細かな糸を通す作業、そして実際に織れるようになるまで何度も足を運んでいた

できました。小市さんは、子どものころお母さんの機織りの手伝いをさせられたことで機織りの技術が身についたといえます。今ではハタ織り機のほかにも糸車や畳表織り機、紡毛機など糸取りの道具を中心に、さまざま道具を修復してくださいました。そのおかげでふるさと館に収蔵されている古い民具が次々によみがえりました。

小市さんのご協力により、ただ展示してあるだけだった古い民具が生きた道具として復活し、見学に来る子どもたちにも昔の道具のすごさ、先人たちの知恵を伝えることができている。まだまだ復活を待っているたくさん道具があります。小市さんは少しずつ息を吹きかけてくれます。

## 飯山市ふるさと館企画展 「いいやま自然再発見！」

飯山市は、ふるさとの原風景が残るまちとして四季を通して豊かな自然に恵まれています。また、全国屈指の豪雪地として知られています。雪との関わり合いのなかで育まれてきた美しい自然にはいろいろな動植物、そして人が暮らし、雪国独特の産業・文化を生み出してきました。

雪深い飯山の豊かな自然のなかに暮らす植物や動物、人々と自然とのかかわりを、雪国飯山の特徴的な自然を概観しながら紹介します。

- 期 間 4月19日(火)～6月19日(日)
- 場 所 飯山市ふるさと館 ■休 館 日 毎週月曜日
- 開館時間 午前9時～午後6時(入館は午後5時半まで)
- 入 館 料 大人200円 小中学生100円(市内小中学生は無料)

### 現地学習会『飯山天然記念物めぐり』

- 日時 5月28日(土) 午前9時～午後3時
- 講師 高橋 勸 先生 ■資料代 200円 ■定員 30名
- ※申し込み受付：5月1日(日)以降(定員になり次第終了)。
- 詳細は、ふるさと館(電話67-2030)まで。



△ハタ織りを修復している小市さん。

### ふるさと館への寄贈資料

下記のとおり資料をご寄贈いただきました。  
 (1～3月分)ありがとうございました。  
 ◆清水和正様 ○『ひな人形』七段飾り(昭和55年) ○『市松人形』2点  
 ◆小林さなえ様 ○『ひな人形』人形のみ(昭和46年)  
 ※ふるさと館では、当館で所蔵していない資料の寄贈を随時受け付けています。

## 小菅の柱松行事 重要無形民俗文化財指定記念 伝統文化シンポジウムを開催

市内5件目となる国重要文化財指定を記念して3月27日、市民館講堂で「伝統文化シンポジウム」を開催しました。

当日は、信州大学副学長の笹本正治先生による基調講演「柱松神事と私そして祭の未来」のほか、これまで柱松行事に関わってきた巻山圭一先生、梅千野成央先生、地

元小菅から望月武さんの参加を得て笹本先生がコーディネーターを務めたシンポジウム「小菅の柱松行事から見えてくること」で熱心な討論が行われました。

会場は、100人を超える来場者があり、皆さん熱心に聴き入り、地域の誇る伝統行事が持つ力の意義を再認識できる良い機会となりました。



△熱心に行われたシンポジウムの様子